

## 【旭区】令和6年第3回区づくり推進横浜市会議員会議 議事録

開催日時	令和6年9月6日(金) 14時00分 ～ 15時25分
場 所	旭区役所新館2階 大会議室
出席者	<p>【座長】大岩 真善和 議員</p> <p>【議員：5名】佐藤 茂 議員、こがゆ 康弘 議員、木内 秀一 議員、くしだ 久子 議員、増永 純女 議員</p> <p>【旭区：24名】権藤 由紀子 区長、田畑 哲夫 副区長、種子田 太郎 旭消防署長、下澤 明久 福祉保健センター長、山本 千穂 福祉保健センター担当部長、嘉悦 明彦 福祉保健センター医務担当部長、松村 克紀 旭土木事務所長</p> <p style="text-align: right;">ほか 関係職員</p>
議 題	<p>【議題】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 令和5年度旭区個性ある区づくり推進費の決算について</li> <li>2 令和6年度旭区個性ある区づくり推進費の執行状況について</li> <li>3 令和7年度予算編成に向けて（案）</li> </ol>
発 言 の 要 旨	<p>(議題)</p> <p><b>1 令和5年度旭区個性ある区づくり推進費の決算について</b></p> <p>こがゆ議員：「地域課題の解決に向けた市民協働推進事業（P7）」のうち、地域活動における ICT 活用支援について、若い方が自治会町内会の活動に参加していただくためには、DX化は必要と思うが、3月8日の講座の内容と効果を伺いたい。</p> <p>西原元地域振興課長：SNS や LINE 等を使用した地域での情報共有の方法について馴染みを持ってもらうため、簡単な例を用いて集合形式で説明した。当日のアンケートでは、「身近なところから始められる」「手軽にできる」という好意的な意見があった一方、「IT やパソコンに慣れた人が多くいらっしやらないため手を付けるのが難しい」との意見もあった。</p> <p>これを受けて、今年度は自治会や地域活動団体を選定して、モデルケースとして、それぞれの課題に応じて出前講座を実施す</p>

る。来年度は公募型として個別の支援をしていきたいと考えている。

こがゆ議員：金曜日の夜に実施だったが、高齢の方が多かったように思う。

開催の日時や開催方法は検討してほしい。

自治会町内会の活動には、顔の見える関係が重要であり、オンラインにすればすべて解決ということではない。ICT化をとっかかりに地域活動に参加してもらおうというところがメインとなってくると思うので、検討してほしい。

「区役所満足度向上事業（P22）」のうち、区民ニーズ迅速対応事業について、執行率が200%超となっている。予算流用して、やらなければならないことを令和5年度に実施したためと思うが、なぜ今まで実施できなかったのか。また、実施後の効果を伺いたい。実施しなくてはいけないことであればもっと早くやっておくべきだったのではないかと考える。

齋藤修身総務課長：積年の課題についてこの年度に集中して予算を活用して実施した。階段の手すり設置については要望があり、高齢者の利便性を考えてすぐに実施した。総務課・区政推進課のレイアウト変更を通じて、狭隘な執務スペースの解消と、防災本部や打合せスペースを確保できた。今回の8月の災害対策の際に本部機能の向上等、効果があった。

こがゆ議員：今回は予算残があり実施することができたが、余らなかったらどうなっていたのかと思う。手すりなどは以前から必要であったと思う。限られた財源ではあると思うが、必要なことはしっかりと対応してほしい。

増永議員：「災害に強い区づくり事業（P4）」のうち、防災活動事業について、防災研修会の受講対象を中学生まで拡充したとのことだが、中学生の参加はあったのか。

齋藤修身総務課長：中学生の参加はありませんでした。

増永議員：子どもたちが学校にいる間に有事があった際に、子どもたちがいる中で避難所が立ち上がることになる。子どもたちにも避難

所としての機能を意識してもらうことは重要と考える。今回は中学生の参加は無かったが今後はどのように対応するのか伺いたい。

齋藤修身総務課長：大人を中心に実施している避難訓練に中学生が自主的に参加することは難しい。これとは別だが、小学校4年生の授業で防災の授業を実施している。学校での授業に個別に働きかけて授業で防災視点を学べるように試みたいと考えている。

増永議員：中学生にもわかる内容で子どもたちが有事の際にどのように行動したらよいかということを学校も含めて実施していただくよう要望します。

「地域安全安心普及推進事業（P5）」のうち、地域防犯推進事業について、先週1週間で被害件数が激増し、県内でもワースト2位だったということで危機感を持っている。迷惑電話防止機能を有する機器の貸与について144台の貸出数があつたとのことだが、貸し出したい目標数値や令和6年度の現状を伺いたい。

西原元地域振興課長：現在、約170台を貸出している。300台の機器を用意したため残数が130台となっている。当面は300台を今年度の早い段階に皆様に使っていただくことを目標としている。

増永議員：迷惑電話防止機能を有する機器は有効な手立てだと感じている。警察に話を伺ったところ、高齢者もさることながら、若者のSNSの詐欺も多く苦労していると聞いている。多くの方に使っていただけるよう周知を要望します。

「文化芸術による心の豊かさ推進事業（P11）」のうち、読書講演会事業について、12人の参加ということで少ないように感じるが、応募数を教えてほしい。

西原元地域振興課長：70名の方にご応募いただいた。今回は朗読の講師を務めていただいた方の要請で人数を絞って募集を行った。

増永議員：今年度の予定を伺いたい。

西原元地域振興課長：今年度は現在検討をしている段階。ご関心のある方に楽しんでいただくということを視点に募集人数を含めて実

施方法を検討している。

増永議員：読み聞かせをやってみたいがやり方が分からない方や講座を受けてみたいという大人のニーズが高いことを最近実感している。目的にもよると思うが有意義なものとなるよう検討していただきたい。

「旭区広報事業（P20）」について、事業指標で「SNS年間アクセス数」が目標80万件に対して45万件となっている。区ごとに取組内容に大きく異なっている。数字だけにとどまらず、SNSの活用に際してターゲットや目的、戦略を検討していただきたいと要望する。

木内議員：「子育て・若者支援事業（P13）」のうち、発達障害児等支援事業について、予算額に比べて決算額が上回っている理由を伺いたい。

河合太一こども家庭支援課長：発達支援事業所の案内冊子「あさひっ子」の印刷製本費が高騰したことにより、予算超過での執行になっている。

木内議員：大事な事業のため力を入れて引き続き進めていただきたい。

「地域福祉保健計画事業（P15）」のうち、事業指標「区内地域ケアプラザ及び福祉保健活動拠点における福祉保健活動目的の利用者数」について、指標に対して利用者が多かったということだと思うが、当初予定より増えた理由や利用者の傾向があれば伺いたい。

戸矢崎悦子福祉保健課長：新型コロナウイルス感染症の蔓延後は利用者が減少していたが、5類になったことで、利用者や貸館としての需要が復活してきたと思う。

木内議員：地域でお困りの方が多いと思うので区民の皆様に広く活用いただけるように取り組んでいただきたい。

くしだ議員：「災害に強い区づくり事業（P4）」について、増永議員とのやり取りで、令和5年度の防災研修会で「中学生まで対象を拡充

したが参加がなかった」との話があったが、今年度、既に防災訓練をした自治会の中で中学生に直接働きかけをして、何人かの生徒が参加していたところがある。自治会長が学校に働きかけをしたことで実現したようだが、こども家庭支援課の学校連携担当から中学校へ事例紹介のような形で働きかけはできないのか。小学生のうちから防災に関心を持ってもらうことは大切だが、中学生や高校生くらいになると有事の際の活動力になると思う。

齋藤修身総務課長：上白根北中学校の拠点では中学校を使用しているということもあり、運営委員長と学校が連携して、中学生が訓練に参加している。

中島こずえ学校連携・こども担当課長：学校連携の事業の中に学校・家庭・地域連携事業がある。その中では防災訓練に中学生が出席するという取組を行っている学校がある。中学生が訓練に参加することは重要だと考えているため、本事業での実施内容を発信するとともに、年度初めの校長会や副校長会でも地域の要望に応じていただくよう引き続き伝えていきたい。

## 2 令和6年度旭区個性ある区づくり推進費の執行状況について

増永議員：「安全で安心な食と生活環境支援事業（P6）」のうち、動物適正飼育推進等啓発事業について、ペット同行避難者受入訓練の支援を5拠点推進していただくということでありがたい。進捗を引き続き教えていただきたい。

「旭ふれあい区民まつり（P8）」について、様々な商店街にお声がけいただきたいと要望したが、今年度対応いただき感謝している。有意義なものになるよう期待している。

くしだ議員：「安全で安心な食と生活環境支援事業（P6）」のうち、動物適正飼育推進等啓発事業について、ペット同行避難者受入訓練の支援を5拠点で実施するということだが達成できそうか。

中条圭伺生活衛生課長：8月末時点で万騎が原小学校、南本宿小学校、本宿小学校の3拠点が決定している。ほかに、連合町内会で実施

する防災フェスタでもブースを設けてペット同行避難について周知を実施する予定。スターターキットを配布する際などの機会を捉えて訓練実施について推進していきたい。

くしだ議員：能登半島地震や8月の台風など防災の意識が高まっていると思う。この機会をチャンスととらえて取組を進めていただきたい。

予算ではないが、保護猫活動を旭区は熱心で区役所が協力的ということボランティアから聞いている。公の施設が借りられない中で旭区では公会堂の会議室で譲渡会を実施させてもらっているということで感謝の声を聴いている。また、11月には他の公共施設でも譲渡会ができると聞いている。

最近テレビでも保護猫、保護犬が取り上げられて関心が高まっており、先日の譲渡会でも30匹の猫がほぼ決まったと聞いた。この活動を受けて、旭区の保護猫の数も減っていると聞いている。

より地域に近いところで小さくてもいいので譲渡会ができると近隣の方も関心を持つことができると良いと思う。今後も区役所から地区センター等への働きかけはしていただけるか。

中条圭伺生活衛生課長：11月10日に上白根コミュニティハウスで実施予定。譲渡会では80～100名程度の来場者があり、参加猫もほとんどが譲渡できている。ボランティアの方のおかげで公会堂実施の譲渡会は施設に対する衛生対策の実績もあり、他の公共施設での実施支援についても前向きに考えていきたい。

西原元地域振興課長：公会堂は地域振興課で施設管理をしている。施設管理上、ペット同行はお断りとしていたため、動物を室内に入れることにハードルはあったが、今回は保護猫の譲渡会ということで趣旨を鑑みて指定管理者と協議のうえ実施することができた。実施にあたっては主催者の方に気を使っていた。地区センターについても個別に対応していきたい。

くしだ議員：ボランティアグループの方々も毛が落ちないようにゲージに入れたり布をかけたりと気を使っていたと聞いている。工夫をしてノウハウが蓄積されていると思うので会場提供に力を貸

していただきたい。

「あさひのつながり応援・発信事業 (P7)」のうち、市民活動支援センター (みなくる) 事業について、サークル体験・見学会に 100 団体がエントリーしたということだが、参加者数と反応を伺いたい。

西原元地域振興課長：団体からのアンケートによると、参加者数はトータルで 20 名ほどしかいなかった。原因は PR 不足だったかと考えている。体験・見学会に参加した方がその後の活動に参加をしているかは調査ができていない。参加者数が少なかったということで多くの方に情報が届けられるようにトライしていきたい。

くしだ議員：活動への引っ掛かりができればということで今回実施したと思う。関心を持ってくれる方がハードルを低く参加できるような工夫をしていただき、サークル活動を通じて今後の地域活動や旭区の行事等々に繋がっていくと良いと思う。

佐藤議員：「子育て・若者支援事業 (P12)」のうち、困難を抱える若者支援事業について、地域の関係者は民生委員や当事者家族が主と伺っているが、他に講演会などに協力してくれる団体はあるのか伺いたい。

中島こずえ学校連携・こども担当課長：西部ユースプラザと一緒に実施をしている。

佐藤議員：「就労への意欲醸成をすることを目指して」と記載があるが、この事業を通じて就労につながった方はいるのか伺いたい。

中島こずえ学校連携・こども担当課長：参加された方のその後については調査ができていない。

昨年度から区役所での会議や講演会などの設営等に協力してもらっている。8月の講座にご協力いただいた方が5名おり、「区役所でやるのは最初のステップとして良い」というご意見をいただき、その中の1名が帰宅後すぐに次の場所の紹介をしてほしいという話があった。次はケアプラザでの業務を体験してもらおう予定。小さなステップでも自分が役に立つ経験や褒め

られる経験を通じて社会に戻っていったらよいと思っている。

佐藤議員：日本でライドシェア導入の可能性がでてきているが、欧米では対人関係なく完結できるため、引きこもりの方がライドシェアをしている人が少なくないと聞いている。日本でライドシェアが（本格）導入された場合、引きこもりの方がライドシェアを行う可能性があるか伺いたい。

中島こずえ学校連携・こども担当課長：1人ひとり、背景や状態等異なるため、一概にありますとは言えない。農福連携として農業体験のメニューも用意している。人によってはコミュニケーションを取るよりも、もくもくとやる方がいいという方もいる。自信を取り戻すためにあえて他人がいたほうが良い方もいる。そのあたりの見極めは西部ユースプラザでしっかりとしているため、区役所としては適材適所のところにつなげていきたい。

佐藤議員：旭区内の引きこもり数は把握しているか。

中島こずえ学校連携・こども担当課長：引きこもり数は把握できていない。

佐藤議員：「健康生活支援事業（P15）」のうち、禁煙推進・受動喫煙防止啓発推進事業に関連して伺いたい。旭区内の喫煙禁止地区は2か所と認識をしているが、他に禁止の要望がある地域はあるのか伺いたい。

西原元地域振興課長：現在、二俣川駅周辺地区で禁止区域を設定している。広聴では、鶴ヶ峰エリアについても禁煙区域に指定していただきたいという声をいただいている。

佐藤議員：「統合事業費（P22）」のうち、緊急時情報システム運用事業について今年度のゲリラ豪雨で稼働したのか伺いたい。

齋藤修身総務課長：今回の台風7号や台風10号の際に稼働している。

佐藤議員：緊急時情報システム運用事業の対象者はどの程度いるのか。

齋藤修身総務課長：7月12日時点で175件の登録がある。

大岩議員：「自然豊かな旭区魅力アップ事業～国際園芸博覧会の機運醸成



～ (P19)」について、横浜がこれまでやってきたことを機運醸成につなげられるかが重要だと考えている。横浜市内には2700か所の公園があり、9割以上が公園愛護会の皆さんが管理している。公園愛護会と国際園芸博覧会と連携ができれば良いと考えている。現在、機運醸成に向けて公園愛護会と何かしらを実施しているか。また、旭区内の都市公園の数及び公園愛護会が管理している数を伺いたい。

西澤美穂区政推進課長：公園愛護会との連携についてですが、花いっぱい事業にて、花苗を自治会に配った際に花冠あさひくんのグローブや園芸博 PR のピックを配って花を植えていただく等、自治会町内会を通じて公園愛護会の方に PR をしていただく取組をしている。

青木一義旭土木事務所副所長：土木事務所が管理している公園は198公園あり、そのうち186公園で公園愛護会がある。

大岩議員：物品の配布等はやられているのだと思いますが、他にもっとやれることがあると思う。みどり環境局が所管かと思うが、公園愛護会に若い人が入ってこないという課題がある。アプリを使った取組や若い人が緑に触りたくなるような楽しい企画ができると思う。機運醸成という意味では、公園愛護会に参加している方々は緑に関心が高いと思うので、何らかの形で連携して取組をしていただきたい。

### 3 令和7年度予算編成に向けて（案）

<質疑なし>

### 4 その他（直近の旭区災害対策警戒本部の対応状況）

増永議員：被害はなく、避難者もいなかったということで結果的には良かったと思うが、レッドゾーンが出た場合や避難対象者が増えた場合の周知方法について、現状のホームページやSNSでの発信にとどめる予定か。

齋藤課長：現状の体制ではその予定です。

	<p>田畑副区長：今回の台風でも、帷子川の水位上昇により氾濫の危険性が高くなった際に、消防署から個別の周知をしている。浸水エリアの避難の個別の呼びかけをしていく。旭区全域でそのような状態になった時は個別呼びかけが難しいため、できるだけいろいろな方法で周知できるようにしていきたいと考えている。</p> <p>増永議員：旭区外でも避難所ができて避難者がいなかった、避難所開設されていることを知らなかったという方がいる。災害時の周知については大変ですが、大事なことだと思う。希望が丘の1つの地域ではLINE オープンチャットを作っている。方法に答えは無いが、例えばラジオ局と連携したり、連合町内会長と連携して声掛けする等、周知方法をあらかじめ決めておかないと知らなくて危険な状態になる可能性がある。今後も含めて、方法の検討と周知をお願いしたい。</p> <p>木内議員：浸水に関してはイメージが湧くが、土砂災害で注意すべき箇所はどのあたりか教えてほしい。</p> <p>齋藤修身総務課長：区内に即時避難指示対象区域は無いが、土砂災害警戒区域は114か所指定されている。ハザードマップで示している。</p> <p>木内議員：114か所、危険なところがあるという理解でよいか。</p> <p>齋藤修身総務課長：崖崩れが発生した場合に、危害が生じるおそれがある区域である「土砂災害警戒区域」という意味では危険性はある。</p>
備 考	会議の議事録作成については座長に一任で異議なし